

<対策のポイント>

水産資源の回復には漁場環境に悪影響を与える様々な要因への対策が不可欠であることから、**栄養塩、赤潮・貧酸素水塊及び海洋プラスチックごみ**に関する調査や被害軽減等の対策技術の開発を支援します。

<政策目標>

水産資源の回復（養殖漁業の生産安定及び漁場環境の保全）

<事業の内容>

1. 栄養塩に関する調査及び漁場生産力回復手法の開発

○ 栄養塩と水産資源の関係を定量的に解明し、適正な栄養塩管理モデルを構築します。

○ 色落ちの被害が発生した海藻類への適切な栄養塩供給手法の開発を支援します。

2. 赤潮・貧酸素水塊の被害防止対策技術の開発

○ 赤潮による被害を軽減するための手法及び貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法を開発します。

3. 赤潮・貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発

○ 自動観測装置をネットワーク化し広域な海域に対応した装置の開発を支援します。

4. リモートセンシングを活用した有害赤潮の種判別手法の開発

○ 人工衛星により有害赤潮の種判別を可能とする技術を開発します。

5. 海洋プラスチックごみに関する調査及び削減方策

○ 海洋プラスチック（マイクロプラスチック）を摂食した魚介類の生態的情報等を調査します。

○ 漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の検討・普及を支援します。

<事業イメージ>

背景と課題

栄養塩類の減少や偏在によるノリ等の色落ちや水産資源の減少

赤潮・貧酸素水塊による魚介類の大量へい死



海洋プラスチック（マイクロプラスチック）が魚介類に悪影響を及ぼす可能性

漁業・養殖業に由来するプラスチックの海洋への流出・マイクロ化

事業概要

栄養塩

- 水産資源に及ぼす影響の調査
- 漁場生産力回復手法の開発

赤潮・貧酸素水塊

- 被害防止対策技術の開発
- リモートセンシングを活用した有害赤潮の種判別手法の開発
- 広域自動モニタリング技術の開発

海洋プラスチックごみ

- 海洋プラスチック（マイクロプラスチック）を摂食した魚介類の生態的情報等の調査
- 漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の検討・普及

漁業被害軽減と漁場生産力の向上の取組を促進

<事業の流れ>



```
graph LR; A[国] -- 委託 --> B[民間団体等]; A -- 定額 --> C[民間団体等];
```

【お問い合わせ先】（1～3、5の事業）水産庁漁場資源課（03-6744-2382）
（4の事業）水産庁研究指導課（03-3591-7410）